

マタイの福音書 第12章 36節

「わたしはあなたがたに、こう言いましょう。人はその口にするあらゆるむだなことばについて、さばきの日には言い開きをしなければなりません。」

イエスが向き合って語るのは、律法学者でありパリサイ人たちであった。いわば、民に有益なことばを取り次ぐ集団といってもよい者たちである。神が彼らに語ることばを委ね、彼らを通して語られることばは人々の益となるはずである。ところが、イエスは彼らにあらためて言う。委ねられたことばにそぐわない語りをしているからである。有益どころか、むだなことばについて触れる。

有益どころか、無益なことばを語っている。これは、律法学者、パリサイ人のみならず、人が口にするあらゆるむだなことばについて語っている。あらゆる、と言うからして、生まれてこのかた人の口から出たことばについてさばきの日に、そのことばの言い開きを迫られる。審判の日にあらゆる無駄口について、神の前で弁明することを迫られる。弁明のしようがないそれまでのむだなことばと向き合わなければならない。

審判から逃れられる者はいない。だから、むだなことばについて語るお方に聞き、みこころにそう言葉使いを心がける。この語るお方の内に在って審判の日を迎える。